

NIFAアクションプラン2018→2022	全体 頁中の 頁
1. 現状の概要と今後の方向性	県協会・地区協会共通 委員会 連盟
<p>2006年度、新潟県サッカー協会機構改革にて、4つの地区協会（上越、中越、下越、新潟）がスタートした。13年間の経過では、徐々に整備、独自に活動してきたが、活動状況には各地区にひらきがあるのも現状である。新潟県においては、地区サッカー協会は県のサッカー協会の傘下の組織であるとともに、独立した協会としての性格を持つものとして位置づけられている。従って、各地区協会の整備にあつては、それぞれに独立した協会としての運営力をつけるべく努力していくことが肝要である。</p> <p>また、県サッカー協会もJFAの地区・支部/市町村支援事業の補助金に加えて、地区協会への補助金額を上乗せして支給し、地区協会の活動をサポートしている。</p> <p>今後、地区協会が県協会規程のもとに、各地区が規程を作成し、独自に組織体制を構築することが今後の課題である。</p>	

NIFAアクションプラン2018→2022	全体 頁中の 頁
2. 中期目標（2030年）	県協会・地区協会共通 委員会 連盟
<p>1. 県協会と地区協会の分担が明確となり、それぞれが的確な組織として運営されている。このため、以下の点が解決されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地区協会の確立 <ul style="list-style-type: none"> 担当者が無理のない範囲で責務を果たす組織 会議、諸手続きなどが明確なルールのもとに履行されている 特に、地区協会活動の原動力となる事務局体制が確立されている ○地区協会財政の確立 <ul style="list-style-type: none"> 登録業務、登録料の配分、補助金の扱い 運営経費の支払い額、支払い方法、財務・経理管理の方法について確立され、的確に履行されている <p>2. 市町村協会の整備 地区協会設立において県協会と地区協会が果たしたように、市町村協会の設立、整備に対して連携し、各市町村協会が各地区協会、県協会、さらには日本協会の傘下の組織として継続的な連携のもとで、互いの目標達成、開く社会への貢献を目指してサッカーの普及、振興がはかられている</p> <p>3. サッカーファミリーの増、未登録チーム、選手の登録数増 県協会および県サッカー協会各担当（委員会、連盟等）における目標設定を地区協会に落とし込んで設定・達成されている。</p> <p>4. 強化の現場として、トレセン活動、大会実施をにいう日常のトレーニング活動が行われている場を活性化し、地区ならびに県の目標が達成されている。</p> <p>5. 県協会事業が各地区協会（県大会主管）でバランスよく分担されている</p> <p>6. 県協会事業につながる地区協会開催内容（県大会の予選など）が的確に行われている</p> <p>7. 地区協会において、各地区の実績に応じた独自の活動がなされている</p>	

NIFAアクションプラン2018→2022	全体 頁中の 頁
3. 長期目標（2050年）	県協会・地区協会共通 委員会 連盟
<p>1. 2030年の中期目標の不足を補い、さらに発展させ、それぞれの地区協会の目標設定・達成がなされている</p> <p>2. 市町村協会においても、地区、県に於いて組織運営がなされ、日本協会、県協会、地区協会の目標が各市町村協会に浸透し、それぞれ達成されている</p> <p>3. サッカーファミリーの増大、社会貢献が広く認められ、地区において、新しいサッカー専用スタジアム 運営されている。</p> <p>4. サッカー関係者が県、市町村において議員もしくは首長として選出される。</p>	

NIFAアクションプラン2018→2022					全体 頁中の 頁
4. 現状分析					県協会・地区協会共通 委員会 連盟
No. と 事項	2022年具体的目標	2018年における現状	達成度	目標達成へ向けての課題	改善の方策
1 組織	<ul style="list-style-type: none"> 県協会と地区協会の組織運営がしっかりとされる。 市町村協会の整備 	<ul style="list-style-type: none"> JFAの地区・支部/市町村FA補助金と県協会の補助金を地区協会に配分し、徐々に地区協会の組織がだてきている。県・地区合同会議の開催で少しずつ、連携が密になってきている。 4地区で活動や意識に温度差がある。 地区協会と市町村協会が連携がとれていない。 地区における縦の連携が整備されていない 各ブロックトレセンでの指導内容が一本化されていない。 	30%	<ul style="list-style-type: none"> 県・地区合同会議の開催により、それぞれが抱えている問題が明確になってきているが、その具体的解決さくがないのが現状である。 地区協会の市町村協会への働きかけや連携 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況により、地区協会の配分金を上げるなど、より活動を活発にできるようにする。 地区協会主催の市町村協会の会議を開催 地区ダイレクター制度の整備と、地区独自の活動推進 県主催トレセンスタッフ研修会等の開催
2 強化	<ul style="list-style-type: none"> 強化の現場として、地区でのトレセン活動が活性化し、地区の強化目標の達成を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区における縦の連携が整備されていない 各ブロックトレセンでの指導内容が一本化されていない。 	50%	<ul style="list-style-type: none"> 地区の組織整備 指導者のベクトル合わせ 	
3 普及	<ul style="list-style-type: none"> サッカーファミリーの増加 未登録チーム・選手数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 1種未登録 チーム数 選手数 2012年度 73 1,582人 2015年度 68 1,622人 2018年度 62 1,562人 全種別登録 チーム 2012年度 504 15,516人 2015年度 504 14,797人 2018年度 485 13,670人 	50%	<ul style="list-style-type: none"> 1種・2種・3種チームが減少し、チーム数は年々減少。今後1種・2種の登録減少に歯止めと、女子・シニアの登録増加が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 1種は社会人連盟とビジョン委員会が共同で、未登録チームの登録推進のため、2009年より3年間、未登録チームだけの大会を県サッカー協会が主催して、グランセナ新潟で開催したが、その参加チームから登録したチームもあったが、減少しているのが現状。今後、地区協会中心に市町村協会との連携で、未登録のチーム大会を開催し、協会への登録を推進していく。
4 施設	<ul style="list-style-type: none"> 中越地区・上越地区に15,000人規模のスタジアム建設される 各地区に大会、トレセン活動ができる人工芝・芝のスタジアム等の競技施設の増加 	<ul style="list-style-type: none"> Jリーグ・Lリーグ・JFL開催スタジアム 新潟地区 2会場 上越地区 2会場 中越地区 2会場 下越地区 2会場 その他芝・人工芝 新潟地区 11面 上越地区 9面 中越地区 12面 下越地区 13面 	50%	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用、集客できるチームの出現 県大会上位レベルでの大会については、芝・人工芝での開催ができるようになっているが、まだまだ、確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政への働きかけを行う。 行政への働きかけを行う。
事項番号と見出し	事項の中での具体的な目標 明確に、可能であれば数値で	2022年目標に向けての2018年での現状 達成度の%表記を右欄へ記入→	%表記	目標達成のために解決すべき課題	課題を解決、改善のための方策の概要

5. 具体的アクション

県協会・地区協会共通
連盟
地区協会

No.	誰が	いつ・いつまでに	どこで	何を	どのように
1 組織	県協会 会長・ 専務理事 役員 ビジョン委員	2022年まで	県サッカー協会	県協会・地区協会合同 会議（地区連絡協議会）	県・地区協会の役員が集 まった中、地区での問題 点や県協会への要望を 集約し、具体的解決策を 話し合い、実行する。
2 強化	県技術委員会 地区ダイレ クター	2019年度中に	県技術委員会トレセン 担当が	地区によるトレセンの 一貫した指導システム	地区ダイレクターを中心 に一貫指導システムを地 区の事情に合わせて行う
3 普及	地区協会	2019年度中に	地区内で	未登録チームの大会	大会を開催し未登録チー ムの把握と登録推進を 勧める
4 施設	県協会 地区協会	2022年までに	各地区で	芝生・人工芝グラウンド	各地区で3面増やす

↑現状分析での事項No.に対応。複数の事項にまたがって、一つの事業で対応することも可能です